

学級の日誌から OUR LIFE AS FOMA 第1号(1997年4月25日)

はじめに

学級担任(1年3組)

池田博明

日直が学級日誌を書く。それは高校生活の毎日の日常の記録である。淡々とした生活、その中に真実はある。発見しようという気持ちがあれば毎日の中になにか、君にとって大切なものが見つかる。ときどき、このような学級通信を出すつもりである。題名の意味についてはあまり説明しない。「フォーマ」とはアメリカの作家ヴォネガットがその小説『猫のゆりかご』(早川書房、早川SF文庫)の中で作った言葉で「無害な非真実」つまり「害のないウソ」のことである。

生徒にとっては学校生活をぶりかえる手がかりになるように。父兄にとっては学校の様子が多少は分かるように。

日誌からの抜粋 4月9日～4月24日

★まだクラスのヒトの顔と名前が覚えられないです(4月9日、課題テスト)。音楽が2時間もあって驚いた。友だちと話すのがとても楽しくなってきた(4月10日、クラブ紹介)。50分授業はとっても長いと思った。クラスはとっても明るくて良いクラスだと思う(4月11日)。——赤瀬弓(仮名以下)

★だんだんとクラスになれてきた。初めての服装検査で何もチェックされないで良かった。クラスの雰囲気もだんだんと明るくなってきた(4月14日)。クラスがなごやかになってきてとてもいいと思う(4月15日)。テストでもなごやかに感じる(4月16日、県下一斉テスト)——浅海真

★テストがむずかしくてぜんぜんできなかつた(4月17日、県下一斉テスト)。授業中はとても明るい。楽しい一日だった(4月18日)。今日は初めての土曜日。2時間だったから楽だった。一週間の疲れがどつと出た(4月19日)——芦澤秋

★今日はとても静かだった(4月21日)。(炎色反応の実験の)化学以外は静かだった。いつもと変わらず普通の一日でした(4月22日)。授業中、とても明るかつた(4月23日)——飯田道子

★1時間目のLHRはけっこうにぎやかだった(遠足の連絡とかあったし)。音楽はリズム感のテストがあった。国語は小説文の続き。数学は因数分解の続き。

廊下側のドアが開け放しだと寒い。中学の時より日直の仕事がなくて楽だなと思った（4月24日）。——家永織

図書館オリエンテーション・アンケート（4月9日）より

質問1.一番印象に残っている本または読みたい本をあげて下さい（マンガも含めて）。

山に関する本、こわい本、機械仕掛けの神々（五色ゆう）、空色勾玉（おぎわようこ）、夏の庭、いじめの光景（保坂展人）、フランダースの犬、YAIBA（青山しょうご）、モモ（エンデ）、日出処の天子（山岸涼子）、ジョジョの奇妙な冒険（荒木飛呂彦）、サーフサイドハイスクール、銀河鉄道の夜（宮沢賢治）、三国誌（横山光輝）、赤ちゃんと僕（らがわまりも）、浦安鉄筋家族、お地蔵さん、ラーメンマン、まくはり、さきがけ男塾、スラムダンク、つぐみ（吉本ばなな）、野口英世、キン肉マン、ドラエモン、ピュア、スワロウテイル、キッシーズ、天使なんかじゃない、ご近所物語（順不同）

質問2.オリエンテーションの感想

おもしろい本がたくさんありそうだ。司書の先生が一生懸命説明してくれて良かった。

現代歌情（第1回） 夕立 池田博明

その昔、「朝日ジャーナル」という週刊誌があった。

1971年、その週刊誌に連載されていた『現代歌情』を読むために私はときどき買っていた。『現代歌情』は流行歌や庶民の歌を題材に時代を語るエッセーであった。「歌は世につれ、世は歌につれ」という言葉がある。毎回いろんな書き手が、歌に関する文章を書いた。

書き手の職業欄に「無職」と記されている人もいた。“無職”という職業もあるのだ”と思うと、新鮮な感じがした。その「無職」の人とは数年後に知り合うことになり、今でも友達でいる。本当のところ彼は大学生であった。大学生は職業ではないから、無職と書くしかなかったのだ。しかし、大学生が一流の文化人と対等に週刊誌にエッセーを書いていたということに注目してほしい。そんな時代だったのだ。

『現代歌情』は33回で連載が終わり、歌謡曲が大好きな劇作家の井上ひさし

は筑摩書房の雑誌「言語生活」に2回その続きを書いた。大学生だった私は仲間と一緒に『統・現代歌情』というエッセー集を作ったりした。そんな時代だったので。

さて、1年3組は音楽選択クラスということもあって、歌を題材にときどき作文をしてみたい。とはいっても、私は最近の音楽番組を見聞きしないし、テレビもほとんど見ないので取り上げる歌は当然古い。もし最近の歌について書きたいことがある人は自分で書いてみたらどうだろうか。

夕立 井上陽水 作詞/作曲

夕立 そこまで来ている 雷 ゴロゴロビカビカ
停け容赦ないみたいだ 誰もが 一目散へと どこかへ走る
カエルはうれし泣きをしている
洗濯物が 濡れるから 女は ひきつった顔で
わめきまわる ころびまわる 男はどうしたことかと
立ちつくすだけ 空の水がぜんぶ落ちてる

Ah — 夕立ちだ

私にとって、自分の青春時代、つまり70年代を象徴する歌は井上陽水の『夕立』である。井上陽水は最近ではパフィーの『アジアの純真』の作詞者でもある。現代では自作自演の歌手は珍しくもなんともないが、当時はたいていの歌手は作詞家や作曲家が作った歌を歌うのが普通だったので、井上陽水のように自分で作って歌う歌手は「シンガーソングライター」と言われて特別だったものである。

『夕立』は1974年から75年ごろヒットしたが、演奏も歌も難しいせいか、その後はあまり歌われないようだ。夕立が迫ってくる切迫感、なにかに追い立てられているような、なにかをしなくてはならないような、しかし、なにをしていいのかがはっきりしないといった、あせりの感覚が歌にはよく現れていた。そんな時代だったのだ。

計画は全部中止だ 楽しみはみんな忘れろ
ウソじゃないぞ 夕立だぞ 家に居て黙っているんだ
夏が終わるまで 君のことちずっとおあづけ

大変なことがすぐそこまで来ているんだぞ。遊んでいる場合じゃないぞ。なんといっても夕立なんだぞ。どしゃぶりなんだからな。なんとかしなくちゃ。なんとかしなくちゃ。こういった感覚は別に70年代の青春の特徴ではなく、いつの

時代の青春にも共通だと思うのだが、どうだろうか。

『夕立』の前に井上陽水は『夢の中へ』(1973年)という曲で次のように歌つていた。

探しものは何ですか 見つけにくいものですか

カバンの中も 机の中も 探したけれど見つからないのに

まだまだ探す気ですか

自分が何を求めているのかがなかなかつかめない。しかし、探すことをやめるわけにはいかない。そんな思いに、この陽水の「探しものはなんですか」というつぶやきはぴったり重なった。いつのまにかひとり言として「探しものはなんですか」としょっちゅうつぶやいていたものである。歌の中では陽水は

探すのをやめたとき 見つかることもよくある話で

踊りましょう 夢の中へ 行ってみたいと思いませんか

と誘っているのだが、夢の中へ逃避しても現実はそう簡単には解決しないことが分かっているので、かえって夢の中へ行けなくなってしまうのだった。

それが『夕立』になると、夢なんか見ている場合じゃないぞ、夕立が来てしまつたんだからなと言われているような気がしたものである。詞にも曲にも救いがあるわけではないのだが、当時も現在も不思議なことに陽水の曲を聞くと元気が出るのだった。井上陽水の曲のアレンジをすべて担当していたモップスというバンドの星勝が、リズム感のある、ビートのきいた編曲をしていたからかもしれない。『夕立』のバック演奏もドラムのパンチが利いている。

井上陽水は最初は「アンドレ・カンドレ」という芸名で東京の喫茶店で歌っていたという。アンドレ・カンドレ時代の陽水は梶芽衣子をスターにした映画『野良猫ロック』の第3作(1970年。日本の青春映画の傑作のひとつである)にほんのワンシーンだけ出演している。

クラスの人々の顔と名前は覚えられましたか。私は全員覚えました。

昔、家に「福沢諭吉の家訓」が貼ってありました。その最後の所にこう書いてありました。「進んでやるのが上の上、マネしてやるのが中の中、言われてやるのが下の下」。なぜか記憶に残っているのはこのセリフだけです。いろいろな場面に当てはまる教えです (池田)

1年生の習慣

学級担任

池田博明

もう20回以上も高校1年生と出会って来た。学校の中だけでももう7千人以上の1年生と出会って来た。たくさんの1年生と出会い、2年生や3年生になるのを見守って来た。いろんな原因で2年生や3年生にならない生徒にも、たくさん出会ってきた。そんな経験を通して言えることがある。高校1年生のときに出来る習慣がとても大切だということである。

高校生の年代は体力や知力が最も伸びる時期なので、この時期にできるだけの努力をしないと、まるで体育の時間に体をきたえないまま走り出すような人生になってしまう。いま自分が持っている力ができる程度のことだけをしていたのでは、自分の力はそれ以上に伸びることはない。少し無理をする、つまり自分で出来ることよりも少し上を目指すとよいのだ。そのうちに少しづつ力はついてくるものである。私たちが毎日教えている勉強もそういう性質のものである。

高校1年生というのはもはや子供ではないが、かといって大人でもない。中途半端な年代である。大人として扱われる時もあれば子供扱いされることもある。そこで普通の1年生は混乱してしまう。自分の行動には自分で責任を持ちなさいと言われることもあるが、親や先生が全面的に自分に任せてくれるかというとそうでないこともしょっちゅうあるのだ。1年生は自分で自分の生活習慣を作るということに慣れていないので、普通はどうしても毎日少しづつ手探りで生活を作っていくことになる。その最初の時期に怠惰な勉強の習慣や生活の習慣がついてしまうと後で直すのが大変である。

少し無理をしながら自分の生活をきちんとしていくことが大切である。

日誌抜粋

4月25日～6月13日

★英語は第4第5文型をやった。体育は男子はトレーニング、女子はフォークダンス、1組の男女とやった。おどりがよく分らなかった。3時限目の家庭はにぎやかだった。4時限目はグループ学習みたいなものをやった。数学は因数分解の応用、国語は漢字テスト。学級通信にまさか自分の書いたものが載るなんて、ちょっとびっくりした。いいお天気だな。明日は休みだ(4月25日)。体育はバレー

ボール・ソフトテニス・サッカーに分かれてやった。中学の時とはレベルが違うなと思った。地理は小テストを返された。化学はイオン式を書いた。数学は因数分解のまとめ。今日で日直も終わる。中学の時みたいに仕事を忘れてもう一度という心配がなくていい（4月28日）。——家永継

★みんな楽しそうだった。いい日だった（4月30日）。席がえとか、みんな楽しそうだった（5月1日、壮行会）。スポーツテストと身体測定。みんな疲れてた（5月2日）——石川芳

★みんな久しぶりだった。元気だった。でも疲れた（5月6日、生徒総会）。学年集会。ねむかった（5月7日、遠足オリエンテーション・進路冊子について。進路適性検査）。みんな楽しそうだった（5月12日）——石田朋代

★曇り。服装検査。クラス集合写真注文。黒板消し忘れた（5月13日）。雨。防災帰着地届（5月14日）。雨。歯科検診。楽しかった（5月15日、LHRは映画『ピートルズがやって来る、ヤアヤアヤア！』抜粹鑑賞）——石原鶴

★まあまあの天気。まあまあだった。黒板消すの忘れた。疲れた（5月16日）。曇り。静かだった。2時間で楽だった（5月17日）。晴れ。授業中ちょっとうるさかった（5月21日）——岩澤厚子

★曇り。1時間めの持久走が疲れた。数学の時間うるさかった。黒板を消すのを忘れてしまった（5月19日、内科検診5校時目）。雨。今日から職員室入室禁止。体育がつかれた（5月20日）。晴れ。授業中うるさかった（5月22日、LHR「陸上記録会選手決め」、進路適性検査結果配付）——遠藤夏

★今日すごいわざが流れた。そのうわざは十年前に出来たらしい。そのうわざとは、なぜか毎年1年3組の担任になる先生は五年後、名前もわからない病気にかかり、死んでしまうという話だ。でもうわざはうわざだから本当かウソかは分からない（5月23日）。5月26日～5月29日まで中間テスト。晴れ。テストが返されてうるさかった。数学が他のクラスより平均点が低かった。3組は頭が悪い。でも元気だ、元気が一番。いいクラスだ（5月30日）。曇り。1・2時間目全てうるさかった。でも真じめにやってる人もいた。えらいというか、当たり前。元気はいいが、よすぎる。このクラスはうるさい（5月31日）——奥村友

★曇り。数学の時間うるさくて注意された。日直はけっこう大変だと思った（6月2日）。晴れ。今日は全体的に静かだった（6月3日）。雨。今日も静かにできた。やっと終わった感じ（6月4日）——小澤武

★ハレ。楽しかった（6月5日、LHR「陸上記録会注意事項」「面談資料記入」「席替え」）。晴れ（6月6日）。晴れ（6月7日）——片野善

★ 曇り。今日の体育で実習の先生とフォークダンスと一緒に踊れた。HAPPYな日だった。今日も1日ねむかった（6月9日）。晴れ・曇り。今日は疲れた。はらへつた（6月10日）。曇り。今日は服装検査があった。あと耳鼻科検診があった。大変だったな。今日はバスが遅れて遅刻してしまった。腹へつた（6月11日）——勝俣美子

★6月12日（木）陸上記録会（小田原市城山競技場。3組は全員参加できた！）

★晴れ。非常に疲れた。45分授業でうれしかった。だるい。つかれる。今日も1日がんばった（6月13日）——加藤裕

現代歌情（第2回） 綱渡り 池田

山崎ハコの「綱渡り」は暗い歌である。それに彼女の声はか細い。あまりいい声でもない。伴奏もシンプルである。もともと生ギターに合わせて作り、歌っていたのである。考えようによつては気の滅入る歌である。

しかし、フォークソングの原点にある歌のこころ、自分の声で自分の歌いたいことを歌うという思いの強さが彼女の歌にはある。その意志の強さが彼女の歌のパワーである。

彼女の歌には歌でお客様を喜ばせようというサービス精神がない。したがつて歌番組にも出演しない。テレビにも出ない。暮れの紅白歌合戦に出演するような華やかさもない。

まったく孤独な歌であり、孤立した歌手である。

綱渡り 山崎ハコ 作詞作曲

綱渡り わたしの毎日は 綱渡り 昨日と今日の間

落ちそうで綱をにざる 宙ぶらりん

綱にぶらさがり 下を見る

雲の上に眠りたくない 歩くことを忘れるから

いつも何かに燃えて 細い綱に足をかけ

綱渡り 疲れはしないさ 綱渡り ゆっくり

一步ずつ 歩けば

1976年だった。いまから20年も前のことである。

澤田幸弘監督の作った犯罪映画の中で、孤立した山荘で犯人がかけたラジオから突然この山崎ハコの「綱渡り」が流れてきた。映画の内容とは直接関係のない歌だったのだが、歌のパワーに驚いて、映画館を出た後すぐにレコードを探した。

山崎ハコはすでに『飛・び・ま・す』というタイトルのLPレコードを1枚出していたことを知った。2枚めのLPレコードが『綱渡り』だった。エッセイ集『真夜中に太陽が見たい』(講談社)も買った記憶がある。

本の中には「私は、声をつかって歌っています。あなたは何をつかって歌っていますか?」という印象的な言葉があった。

本からも歌からも彼女の弱いながらも、なんとか笑顔を無理につくってでも生きようとする強い意志が伝わってくるのが感動的だった。

もういやだ　泣いているのは誰　歩けない　立ち止まるのは誰
歩こうよ　もう一度　前を見て
歩こうよ　たかが1本の綱じゃないか
迷っていては　渡れない　上を向いても　渡れない
よろよろよろけて　また一步　笑われていても　それが好き
綱渡り　それでも笑って　綱渡り　だから笑って
綱渡り　弱い足でも　綱渡り　よごれた足でも
綱渡り　笑って歩きたい　綱渡り　だから笑って　綱渡り

自信にあふれて生きていたように見えた友達が、或る暗い夜、突然に海に入つて自殺してしまい、驚いたことがある。

浜辺に寄せては返す夜の波は人を海にひきこむ魔力を持っているのだろうか。たぶんそうではない。海を見つめていた彼には自分の心だけしか見えなくなってしまっていたのだと思う。そしてすっかり自分に自信を無くしてしまったのだろう。実際にはどんなに自信にあふれているように見えるひとだって、毎日が細い「綱渡り」をして生きているようなものなのに。

「他者の目」で見れば誰だってそれなりの人格者に見える。そんな「他者の目」を獲得することはとっても難しい。

姿勢について

学級担任

池田博明

剣道や柔道、合気道といった運動の場合にも、茶道や華道といった文化的な所作事の場合にも、これら「道」のつく日本の伝統において、ともに重要とされるものはいったいなんだろうか。

それは姿勢である。まっすぐに背筋を伸ばして、立つこと。あるいはきちんと座ること。姿勢がちゃんととしていなければ「道」を学ぶことはできない。姿勢を正すことからすべてが始まる。

学校の授業や勉強にも同じことが言える。学ぶときには姿勢が大事である。

授業中にあなたはどのような姿勢をとっているだろうか。背筋はまっすぐ伸びているだろうか。きちんと前を向いているだろうか。ひじをついたり、ほおづえをついたりしていないだろうか。机の上につっぷして寝てはいないだろうか。背筋を伸ばすことから始めなさい。

休み時間にあなたはどのような姿勢をとっているだろうか。椅子に座って休憩するときの姿勢も美しくあれ。廊下に寝たり、うんこ座りをしたりして友達と話す。それは美しい姿勢だろうか。「道」に反していないだろうか。

自分がほんとうにいい姿勢をしているかどうかは意外にわかりにくい。鏡はただ自分の顔を見るものに成り下がっていないか。大きな鏡、つまり姿見がないと肩が下がっていないか、背中が曲がっていないか、左右の均整のとれた動作ができるかといったことはわかりにくい。

『ハンサム・ウーマン』のヒロイン、女弁護士真行寺麻沙美。誘拐犯人との交渉役をする一流の交渉代理人。情に厚く正義を愛するひと。

彼女の姿勢はいつも美しかった。そして、それは彼女の精神の強さと美しさを、りりしさを体で表していた。



陸上記録会入賞

☆ 3000 M	2位	浅海 真	10分15秒5
☆男子走高跳	7位	小澤 武	1M50
☆女子走高跳	7位	石原 舞	1M20
☆女子走幅跳	8位	岩澤 厚子	3M90

球技大会結果

男子バスケット	3組⑫-6組⑧	3組0-1組26	3組⑩-2組⑫
	3組⑥-5組④		
男子サッカー	3組⑥-6組②	3組③-4組0	
女子ドッヂボール	3組⑦-2組⑦		
女子バレー・ボーラル	3組⑤-2組⑫	3組④-7組⑬	3組⑮-6組⑩

日誌抜粋

6月16日～7月18日

★晴れ／曇り。休みあけでみんなぐつたり。オレはあつい。ねむい。(3者面談開始のため)4時間で早く終わった(6月16日)。晴れ。今日一日楽しかった。黒板の消し忘れがあった。今度は気をつける(6月17日)——加藤裕

★雨。2時間目の授業に先生が来なかつた。45分授業はとても短く感じた。授業中はちょっとさかつた!仕事を忘れずにできました(6月18日)。晴れ。音楽の笛のテストは緊張した。LHRのビデオ(陸上記録会の様子)が楽しかった。今日は少し仕事を忘れてしまつた(6月19日)。雨。今日は(台風7号の直撃のため)1時間で終わつた(6月20日)——国原章子

★晴れ。みんな静かに授業ができた。仕事はぜんぶ出来た(6月21日)。雨。3・4時間め以外は私語が少なかつた(6月23日)。晴れ。今日初めてプールに入った。寒かつた。疲れて4時間めはねむかつた。授業中私語が無かつた。黒板がきれいに消せた(6月24日)——小見山弘

★曇り。「あれ」はよかつた。ねむい(6月25日)。晴れ。地震避難訓練。地震なんて來ない(6月26日)。晴れ。プールがあつた(6月27日)——小室心

★晴れ。英語の時間は静かだつた。プールがあつて疲れた(6月30日)。晴れ。単語テストがあつた。授業中は静かだつた(7月1日)。曇り。今日から期末テ

ストが始まった（7月2日）——杉山未加

★晴れのち曇り。部活の朝練に行けなかつた（7月8日）。晴れ。あさってから球技大会だ！（7月9日）。曇りのち晴れ。ねむい。薬物乱用防止講座：映画『フラッシュバックの恐怖』と講話（7月10日）——高杉 稔

★雨。球技大会がつぶれてしまつて残念だった（7月11日）。晴れ。球技大会1日目。皆がんばつていた。いい日だった（7月14日）。曇り。球技大会2日目。しっかり行ってた。日直がやつと終わつた（7月15日）——武松 誠

★晴れ。球技大会3日目。みんながんばつた。あつかった（7月16日）。晴れのち雨。交通安全講話：映画『失われた青春』と講話。LHR。すごく眠かつた。すっごくつかれた（7月17日）。雨のち曇り。学年集会。大掃除がんばつていた。もうすぐ夏休み。ワクスがけ（7月18日）——津田 弥生

★7月19日 終業式

現代歌謡（第3回） 時代 池田

中学校時代、二年の時に隣のクラスに転校してきた少女がいた。ほっそりした美少女だった。私が通っていた山形市の中学校は1学年に10組もあり、私は7組だった。人の名前を覚えるのが早かつた私は中学の間に同学年全員の名前を覚えることにした。隣の組の転校生は中島美雪という名前だった。結局、卒業ぎりぎりまでかかって全員の名前を覚えることに成功した。しかし、卒業後はそれぞれ別の高校に進学したため、せっかく覚えた同窓生の名前も少しずつ忘れていつてしまった。

7年ほど前に中学時代の隣のクラスのひとから電話がかかってきた。卒業してからだいぶたつたので、同窓会を開く計画があるのだという。その同窓会の幹事になれというのだった。電話で話をしているうちに「中島みゆきにも連絡して呼ぼう」という。私は仰天した。「中島みゆき？あの歌手の？」「そうだよ。私のクラスにいたじゃないか」「おかしいな。全員を覚えたはずだったのに」。

さっそく古いアルバムを開いてみた。隣のクラス6組の白黒の全体写真に彼女は写つていたのである。すぐに歌手の中島みゆきであることが分かつたほど、彼女は変わっていなかつた。次に卒業生の一言が載つている文集を開いてみた。すると、彼女は卒業していないことが分かつた。3年の途中で再び転校してしまつたのであった。両親の仕事の関係でしょっちゅう転校していたらしい。いつのまに

かやってきて、またそっと去っていく。いかにも中島みゆきらしいなと感心してしまった。

同窓会に中島みゆきを呼ぼうという計画に私は賛成しなかった。だいいち彼女は忙しいはずである。それにたくさんのエッセーがあるが、ショットチュー転校していたためだろうか、中学時代のことをまったく書いていない。同窓会はその後、山形市で開催され、旧クラスで歌を1曲ずつ披露するという趣向があり、隣の6組の生徒が歌ったのは中島みゆきのデビュー曲『時代』だった。

時代 中島みゆき 作詩／作曲

いまはこんなに悲しくて 涙も枯れ果てて
もう2度と笑顔にはなれそうもないけど
そんな時代もあったねと いつか話せる日が来るわ
あんな時代もあったねと きっと笑って話せるわ
だから 今日はくよくよしないで 今日の風にふかれましよう
まわる まわるよ 時代は回る 喜び 悲しみ くり返し
今日は別れた恋人たちも 生まれ変わってめぐりあうよ

中島みゆき。ほぼ同じ時期にデビューしたユーミン（松任谷由美、旧姓荒井）の明るさと比べて「暗い」と言われることが多い。しかし、歌詞をよく聞いてみると決して「暗い」歌ではない。つらい事があった。苦しい時代もあった。しかし、なんとか生きてきた。遠くにかすかな明かりを見ようとする強い意志の歌なのである。この『時代』という歌にはベトナム戦争や大学紛争、内ゲバといった当時の青年の暗さが反映している。映画『いちご白書』に挿入された『サークル・ゲーム』（人生はめぐりめぐるもの）の精神も投影されている。しかし、10年後に薬師丸ひろ子がこの歌を歌ってヒットさせたように何時の青春にも共通する精神がある。

旅を続ける人々は いつか故郷に会う日を
たとえ今夜は倒れても きっと信じてドアを出る
たとえ今日は果てしもなく 冷たい雨が降っていても
めぐる めぐるよ 時代はめぐる 別れと出会いをくり返し
今日は倒れた旅人たちも 生まれ変わって歩き出すよ

明日死んでも

学級担任

池田博明

HR通信のタイトルを変更してみた。

生徒はあまり意識していないかもしれないが、学年末まで秒読みの体勢に入つたのである。休みの日や試験の日、高校入試などを除いて考えると実際に授業を受ける日数は60日そこそこしかないのである。つまりあまり後が無いのである。この辺でがんばらないといけないという意味で「がんばれ」という訳だ。

ところで、山北高校新聞で「先生の高校生時代」という特集をするそうで、ほとんどの先生が自分の高校生時代のことを書いたようだ。私も書いた。私は未熟児で生まれ、虚弱児童だったので小学校高学年から体育クラブに入った。体をきたえるために中学・高校と運動部（バレー・ボーラー）だった。高校では試合に出させてもらえなかつたが、一度もやめようと思ったことがない。部活動の目的が体を作るためだったからだ。ただし一番好きなことは本を読むことだった。クラブの練習は毎日だったが、家で4時間は読書か勉強をした。いちばんの成長期に運動したお蔭で体力はついたが、自分の体力を過信しすぎた。大学でひとりで生活するようになって、食事が不規則になった。とうとう大学4年のときに栄養失調で病気（ウイルス性肝炎）になってしまった。このまま死ぬんじゃないかと思うほど悪くなつた。その時点でようやく分かった。平凡な一日がとても大切である事が。「明日死ぬ」立場になった者の目でみると世界が光り輝いている事が。そしてたくさんの人の支えがあつていまの自分があつたんだという事が。自分ひとりで生きられるという気持ちはとんでもない思い上がりだという事が。

なんとか命びろいをしたが体内に爆弾を抱えているようなもので、いつまた病気がぶり返すか分からない。最近少し調子が悪い。そこで、いつも自分に言い聞かせている。「明日死んでもいいですか」「明日死んでも悔いはないですか」と。

実際にはまだやり残している仕事がたくさんある。死んではいられないと思う反面、いつ死んでも悔いがないように、今日は今日のことを精いっぱいやっておこうと思っている。

★9月1日 始業式。9月2日 課題テスト。

★晴れ。2学期になって初めての授業だった。国語と社会の授業は少し私語が多くたけど他の授業はしっかりできたと思う。あと課題テストが返ってきた。黒板を消すのを忘れてしまった。あと2日、消し忘れのないようにしたい。暑かった(9月3日)。曇り時々晴れ。授業はけっこう静かだった。とにかく暑かった。音楽で夏休みの思い出を一人ずつ言つた(9月4日)。曇り時々晴れ。服装検査があった。授業中少しうるさかった。今日も暑かった。やっと日直終わり!

(9月5日)。——土屋 亜美

★曇り。保健は静かだったけど、数学が少しうるさかった。今日も暑かった。でもがんばった(9月6日)。——永田 幸

★曇り。暑かった。みんな元気(9月8日)。雨。だらだらしてた。暑くてやる気が出ない(9月9日)。晴れ。みんな勉強をちゃんとしてた!暑い。疲れた
(9月10日) ——戸村 台

★晴れ。実力テストはみんながんばっていた。国語で文を覚えるのにみんな必死だった(9月11日)。晴れ。少しうるさい時があったけど、みんながんばった。日直の仕事はよくできた(9月12日)。——永田 幸

★雨。いつもどうりだった。英語はいつも静かだ(9月16日)。——長野 芳

★曇り。今日はいつもと違つて意外と授業中静かだった(9月17日)。曇り。今日は昨日よりもとにぎやかだった。それは「暑かった」からだ。明日は台風, COME ON(9月18日)。曇り。台風は千葉の方へ行つてしまつた。台風こっちへ戻つて来い来い。なぜ来ない。今日は UAE 戦だ。オレも出るんだぞ。見ててくれ。ハットトリック決めてやるぞ。フランスへ行こう。(9月19日)。——中野 義幸

★晴れ。静かです(9月20日)。曇り。うるさい。今日は雨が降ると思ってたのに降らない(9月21日)。——長野 芳

★曇り。国語は余裕だ。日本人だからだ。英語はダメだ。日本人だからだ。ピックリマンチョコの話でもり下がつた。(サッカーの)日本にロペス・ワグナーが入つたので、日本は強くなると思う。9月28日(日) 日韓戦 kick off 14:00 見よう。日直はやってみないと分からぬが黒板に書かれた字を消すタイミングが難しい。フェイントかけんべ(9月24日)。曇り。今日は「末吉」だったのでいいこ

と無かった。最近、オスギとピーコの区別がつかなくなってきた（9月25日）。雨。いろんな事を考えてた。みんな静かでした。みんなのび太でした。日直はよくわからないが、いつもより体を動かさないといけない。「日直」っていう職業にならない方が身のためです（北の国から97）（9月26日）。——西山 加

★晴れ。授業中はうるさい方が多い。雰囲気はだらだらしてる（9月29日）。晴れ。ざわざわしている。国語の先生が怒っていたような。最近忙しい。やることがありすぎる（9月30日）。晴れ（10月1日）——福住 良

★曇り。音楽の授業はよくできました。クラスは相変わらず明るい。文化祭の準備が忙しいかも（10月2日）。曇り。文化祭の準備をとてもよくやっていた（10月3日）。[全日文化祭準備（10月4日）。文化祭当日（10月5日）。後片づけ（10月6日）。代休（10月7日）]。晴れ。静かな一日であった（10月8日）。——古屋 健

★曇り。今日は45分授業だったので1時間が短く感じた（10月9日）。授業中うるさかった。今日はカゼをひいて苦しかった（10月14日）。晴れ。今日の授業はいつもより静かだった。けれど数学の時間はいっぱい注意されてしまった。やっと今日で日直が終わった。カゼをひいて苦しいのに黒板を消すのは大変だった。とりあえず終わり（10月15日）——松田 恵

★体育は疲れた。（化学の）実験に失敗した（10月13日）。晴れ。化学の時間がうるさくて、先生に怒られた（10月16日）。曇り。国語がちょっとうるさい（10月17日）——森下 実

★なかなかいい天気。今は自習。ゆうほ、プリント終わってるので辺りを見回してみる。静かだ。みんなしっかりやってる。エライですね。でもきっと数学はうるさくなるだろうな。だって、TEACHERの話し方楽しいんだもんよ。今は数学です。みんな静かになっております。テスト前というのを自覚したようです（10月18日）。晴れ。今日の体育は超楽しかったデス。BUT 動きすぎて腹へった。とつぜんですが、芳賀 TEACHERはナメック星人です。でもそつとしておいてあげて下さい（すごく大人げないです）。明日はテスト（10月20日）。[中間テスト（10月21日～24日）]。晴れ。疲れた。みんなテストできたみたい。ハハ（10月27日）。——梁島 友

★晴れ。1時45分、今のところ完璧な日直さだ。初めてにしては上出来と言っておこう。黒板消しが汚いと地理の先生が怒っていた。悔しいので6校時めには

キレイにした。でもポケベルが鳴って先生が怒った（10月28日）。晴れ。保健のときはいつもわりと静か。テストが返され今は自習（10月29日）。晴れ。今日はなんだか1日中うるさかったような気がする。だが日直の仕事は一応できたのでよしとしてしまおう。明日は遠足だ。なぜ近場ばかりなのか（10月30日）
——矢野 明

★[棚沢キャンプ場への遠足（10月31日）]晴れ。今日はうるさかった。2時間で終わってうれしい（11月1日）。晴れ（11月4日）。晴れ。うるさかった（11月5日）——矢野 雄

★曇り。very goodです（11月6日）。晴れ。nice,nice. Yes,I do.少し私語がめだったような気がした（11月7日）。晴れ。みんなのび太ぐらいい静かだった（11月10日）——湯川 誠

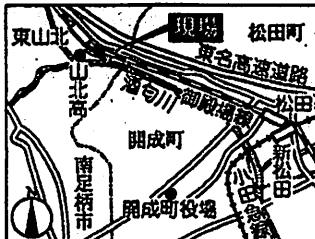
★晴れ。（火災）避難訓練のシャーテーでタケシが2回やって面白かった（11月11日）。晴れ。地理は書くことが少なく、話が長くて、いい授業だった。水曜は移動する授業がないから1日が長く感じる（11月12日）。曇り。酒匂川清掃。国語は最初から最後までずっとうるさかった。黒板はよく消せたが日誌は忘れてばかりだった（11月13日）——米山 真

★[県下一斉テスト（11月14日）]曇り。すっごく集中していてとてもよろしいです。みんなとっても疲れているように思えた。わたしもめちゃくちゃ疲れた。土曜ってとても早いけど（11月15日）。雨。今日もとっても静かでよろしい。AND集中してる？日本のサッカーが勝ってとてもうれしい（11月17日）。晴れ。今日も、とっても授業まじめにやっていた。天気がよくてすごく嬉しいです。景色がよい。山も富士山もすごいきれい。P.S.みんなカゼひかないように頑張ろう（11月18日）——渡邊 相子

日直もひと回りして、全部ではないが、一応学級日誌の記録も掲載できた。以後の記録は全員にこだわらないつもりだ。

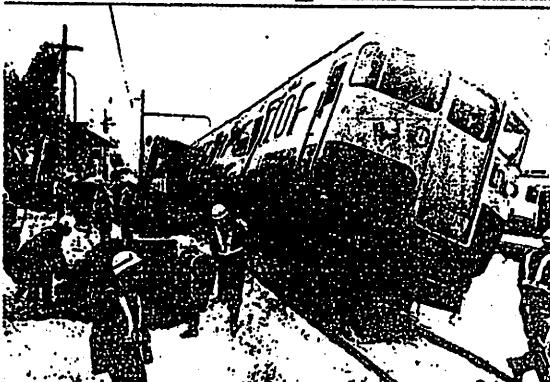
それにしても、私語は残念なことである。自分勝手な行動は他人の迷惑である。小さなこどもには自分の世界しかない。他人を思いやる気持ちが持てるようになるのが成長である。
（池田）

育行代未見網！
村兩踏切で通学
電車と衝突。



神奈川新聞
1998年1月17日
付 25面→

1面↓
(縮小)



県内各地で雪害のダメ跡

16日午前、山北町内原、JR横須賀線松田—山北山北駅間の踏切で大同トレーーーが雪のために、スリップして止まらず、正面から走ってきた電車に乗り上げられ、先頭車両が脱線した。駆けつけた駕籠屋の高橋敏義さん(67)は、「車両が止まらなかった」と話す。

トレーーーが積んだコンクリートブロックが電車の窓ガラスに食い込み、先頭車両は左側に大きく傾いた。電車の窓ガラス六枚と右側一番目のドアが完全につぶれ、衝撃の強さを物語る。

十六日前八時二十分ごろ、山北町内原、JR御殿場線松田—東山北駅間の村路踏切(警報機・遮断機付)で、寒川町大曲、運転手山坂博明(55歳)の大同トレーーーに國府津発沼津行きの下り電車(六両編成)が衝突。先頭車両が脱線した。衝突の衝撃などで窓ガラス六枚が壊れ、乗客約六百五十人のうち女子高校生ら六人が足や頭などに怪けがをした。

松田署の調べでは、トレーーー(14t)、車体の長さ(12m)が現場の踏切(幅員4.5m)を通った後、縦い上り坂で雪のためタイヤがスリップ、ズルズルと後退して車の後部が踏切にかかった。このため、運転士

立ち往生、雪に電車

踏切で滑ったトレーーー

席から降りた山坂駕籠屋さんが間に合わず、通過した電車とぶつかったとい。現地付近は積雪10cmで、道路は滑りやすくなっていた。山坂駕籠屋は子供一人などは付けておらず、

席から降りた山坂駕籠屋さんが間に合わず、通過した電車とぶつかったとい。現地付近は積雪10cmで、道路は滑りやすくなっていた。山坂駕籠屋は子供一人などは付けておらず、

「キキキキーッ」という、引連なるような大きな音がして、トランクが石垣にでもぶつかったのかと思つた。

強い衝撃 もやもや

外に出ると女性の声が聞こえたので駆け付けたが、まさか電車が脱線しているとは…」

事故現場近くに住む主婦兵藤千穂さん(35)は、こう語った。「トレーーーが積んだコンクリートブロックが電車の窓ガラスに食い込み、先頭車両は左側に大きく傾いた。電車の窓ガラス六枚と右側一番目のドアが完全につぶれ、衝撃の強さを物語る。

「、同署は業務上過失傷害の現行犯で逮捕した。同容疑者は踏切近くにある土場から宇都のコンクリートブロック一個(重さ約10kg)を積み、静岡県富士宮市に向かう途中だった。この事故で松田—山北間が不通になりJR東海では折り返し運転を実施する一方、同方面で代替バス輸送を行った。同様は午後三時頃で運転を再開したが、特急も

ブロック一個(重さ約10kg)を積み、静岡県富士宮市に向かう途中だった。この事故で松田—山北間が不通になりJR東海では折り返し運転を実施する一方、同方面で代替バス輸送を行った。同様は午後三時頃で運転を再開したが、特急も

して約四千人の足が乱れた。

事故が起きたのは朝の通勤・通学ラッシュの時間帯。

国府津—沼津間を結ぶJR御殿場線は、ローカル線

ばかり六両の車内は足場を

やわらかる乗客を乗せ、登校途中的高校生も多かつた。

一回目は後の後部をほどんど無撃び、二回目(このたび)は「突然、電車が止まつたので何といふことが起きたのかと思った。二十分ほど閉じ込められた状態だったので前の車両に行つたら、便りどたのひやく事情が分かつた」と話す。

事故の朝

学級担任：池田

1月16日（金），前日に雪が降った。朝8時ごろ自家用車で学校へ来たところ、陸上部や女子バレーボール部の生徒が正門玄関から生徒昇降口までの間を雪かきをしてくれていた。一般生徒の気付かないところで偉いものだと感心しながら、雪かきを手伝っていたところ、いつもの8時20分の電車が到着しないことに気がついた。車で国道を通って学校へ通報に来た先生から村雨踏切でコンクリートを積んだトレーラーと電車が衝突したことを聞いた。電車が脱線して傾いていると聞いて、生徒に死傷者が出たのではないかと思った。急いで現場に駆けつけると既に救急車が来ていた。1両目は人が降りてしまい、空っぽだった。車体にコンクリートがめりこんでいたのを見たとき、これは完全に誰か亡くなつたと思った。生徒の軽傷者5名と聞いたときは奇跡だと感じた。それから先生方で2両目以降の生徒が電車から飛び降りるのを手伝つた。

学校では代替バスの交渉に時間がかかった。JRの交信が混乱したためであった。JRの復旧の見通しが明確でなかったため、この日は午前中で授業を打ち切り、臨時バスを確保して生徒を下校させた。

そのとき私は……（書いてもらった記録から抜粋）

2両目に乗っていた。先輩数人と話をしていた。松田から東山北間を電車は快調に走っていた。スピードが急に遅くなったのを外の景色を見ていて気がついた。数秒後、電車は何かにぶつかった。音はすごいが衝撃はあまり無かった。前を見ると1両目が脱線している。電柱が倒れてきたのかと思った。トレーラーに追突したのはすぐ後に分かった。1両目の人は無事かどうか心配になった。けが人は多くはなくて安心した。この事故が大きな事故だったとは家に書いてから知った。こんな事はめったになく、僕の高校生活の思い出となる。（米山 真）

2両目の真ん中に座っていて、友人と今日の授業のことや、雪のことについて話していました。いつもなら、一瞬だけ止まるはずなのに、なかなか動かないのがおかしいなと思っていたら、私の前に立っている友人が「トラックが電車にぶ

つかつてゐる」と言ったので、立って見てみると、トラックの荷台の所が斜めになつてゐるのが見えました。

私達、山高生以外にも、一般の人も乗車していたので、少々どよめきが起つて、携帯電話で会社や友人に連絡していました。山高生でも携帯を持っている人は友人に連絡する人がいました。

先生や地域の人に助けられて安心しました。

後から、他の学校の友人とかに聞かれて、私がその電車に乗っていたと知ると、驚く人がほとんどでした。（家永織）

2両目の後ろの方に乘つていた。事故については近くにいた知らないおばさんから聞いた。最初、電車の速度がゆっくりになって、ガタンっていうゆれが3回ぐらいあって電車が止まつた。私のいた所からは、トラックが踏切のところで止まっているのぐらいしか見えなかつたと思う。電車から降りるのはちょっと大変だつた。もうちょっと降りやすくなつていると、いざという時に役立つのに。

（松田 恵）

2両目に乗つていて友達と話していた。電車がゆっくりになって、「ガコン」という音で電車が止まつた。回りの人が、電車の中を行つたり来たりして、落ち着きがなかつた。「大きい岩がぶつかつてゐる」とか言つていた人がいた。窓から降りてる人がいた。しばらくたつて、ドアが開いて、先生たちが来て、ドアから飛び降りた。その時、結構恐かつた。もう2度とあつてほしくないと思いました。

（永田 幸）

3両目に乗つていた。駅に着いたと思い、降りようとしたが、まだそこは駅ではなかつた。ただ一時停止したのかと思い、ずっと待つてゐた。しかし、待つてもなかなか走らないので、おかしいと思った。が、事故とは気付かなかつた。

（加藤 裕）

一番後ろの6両目に乗つていきました。電車がゆっくり止まって、放送が流れました。その時の放送ははつきり聞こえなかつたけれど、何か事故があつたことは分かつた。はつきりした情報はそれから10分後の8時30分ぐらいに知つた。同じ車両に乗つていた2年生が身を乗り出してそのことを話していた。6両目だけがをしたとかいう人は誰もいなかつた。1両目に乗つてケガをした人には悪いけど、あの傾きから見て1両目に乗つてなくてよかつたと思いまし

た。(飯田美智代)

6両目に乗っていました。友達と話をしていて、急に電車が止まってしまいましたごくびっくりしました。放送みたいなものが聞こえたけど、何を言っているのかよく分らなくて、近くにいた先生とかと、いろんなことを想像しながら話していました。それから少しして、窓の外を見たらカメラを持った先生が、校長先生と教頭先生を探しに来て、1両目がトラックにぶつかったと知りました。その情報は正確だったと思います。窓からのぞいたら緑色のものが横に傾いていました。電車から飛びおりなくちゃいけなくて大変でした。意外と高くて下には雪がいっぱい、つるつるすべて歩きずらかったです。その後、ヘリコプターがたくさん飛んできて、情報が早いなと思いました。(国原章子)

学校で雪かきをしていました。本当ならその日は8時の電車に乗っているはずでしたが、なぜか7時ぐらいの電車に乗ってきました。もしその電車だったら1両目に乗っていたかもしれないと思うとちょっと怖いです。死人が出なくてよかったです。友達が1両目に乗っていたので、すごく心配しました。無事でよかったです。(渡邊栄子)

松田駅にいた。友達に物を渡すために事故を起した電車から降りた。松田駅のホームに座っていたら事故ったという放送が流れた。自分は運がよかったと思った。駅員が来て「今事故ったから次の電車は相当遅れるよ」と言われた。何分かしたら学校に電話した先輩がいて今日は休んでも欠席にならないよと言われたので、小田原回りで帰った。(小室心)

家で学校に行く準備をしていました。そして8時50分頃に家を出ました。山北は雪がすごかったので、登校するのにいつもより少し時間がかかった。それで9時15分頃学校に着いて、電車の事故のことを知って驚いた。来る時ヘリコプターが飛んでいたのも、電車から降りてくる生徒達が違う方から来ていたのも、自己があつたからなんだなとやっと分かった。(芦澤厚子)

雪でバスが遅れたので、家にいた。8時30分のニュースでやっていた。1番前の車両が脱線していた。その後、臨時のバスで学校へ来た。(武松誠)

(全員の記録を載せられるとよいのだが、まずは異なった状況の
事故記録を載せた)